

温浴施設実現に向けた考え方の整理

1. 温浴施設検討の必要性

新クリーンセンターの施設整備イメージのなかで、熱源としての利用を想定した温浴施設の要望が出されている。温水利用の要望は、現クリーンセンター建設当初から出されていた意見であり、何らかの形で実現できる方策を話し合う必要がある。

エコフェスタ、施設・周辺整備協議会の意見

- ・ 足湯、岩盤浴
- ・ 健康ランド、温泉
- ・ いやしのスポット（ジャグジーバス、マッサージスペース）

新クリーンセンター検討イメージのなかに足湯が含まれているが、現在話し合われている「（仮称）リサイクルプラザ」やエコ活動、環境学習との結びつきはあまり感じられない。また、新クリーンセンターは、余熱から電気エネルギーへ施設が供給するものが変わるため、「ごみ」や「リサイクル」との結びつきを PR する装置として、「足湯」が理解されるか、懸念がある。

持続的な施設として、温浴施設の利用や運用を目指すのであれば、現行の温水プールとこれからつくることを検討する足湯を含む温浴施設の内容や目的を整理し、施設・周辺整備計画の中での位置づけを明確にするべきであると考えます。

2. 現在の温水施設の課題

市民プールの課題

新クリーンセンター建替えに伴いエネルギーの切り替えが必要となる可能性が高い。

- ・ 新クリーンセンター稼働時には、プールの設備の更新が必要となる。（現在 20 年）
- ・ プールの利用が個人、団体に限られ、健康づくりプログラム等へ広がりが見られない。
- ・ 個人利用と団体利用を主に施設を運用している。
- ・ スポーツ振興財団は、プール管理者としてプールのスポーツ利用を担当、健康支援センターは、既存施設への人材派遣等により健康づくりを担う。

プールの管理棟が温水プール利用に適していない。

- ・ 温水プール建設時に既往施設を改修したもので、老朽化が見られ、更衣室等が寒い。
- ・ 温浴と組み合わせた体操等のプログラムが可能なスペースがない。

四中プールの課題

市民プールと同じエリアに二つの温水プールを今後も運営するべきか。

- ・ 市民プールと同様エネルギーの切り替えが必要となる可能性が高い。
- ・ 維持管理費と費用対効果の検証が必要。
- ・ 市民利用に適したつくりとなっていない。

3. 温浴施設の方向性

要望や上記の検討課題から温浴施設について大きく3つの方向性が考えられる。いわゆる地元還元施設として整備するのではなく「スポーツ振興計画」に沿った方向づけを行い全市的な施設とすることが望ましい。

新 クリーンセンターの敷地内に足湯として整備

参考例：こもれびの湯（小村大組合清掃工場）

検討課題

屋内施設（健康増進施設）とする場合：

- ・健康運動プログラムとの連携
- ・プログラムを企画、運用する担当者（団体）

屋外施設（公園的利用）とする場合：

- ・散歩コースやジョギングコースなどとの結びつき
- ・安全や衛生面の管理方法、管理者。

新 クリーンセンターの敷地内に足湯イベントができる設備を整備

参考例：エコフェスタ等で実施

検討課題

現在のイベントの実績を踏まえた新たな展開

市民プール内に設備改修に合わせて温浴施設を整備

参考例：近年、公営のスポーツでは、[アリーナ、トレーニング室、温水プール（25m、幼児用、歩行用）、ジャグジー、会議室]等を備え、競技利用だけでなく、スポーツから健康づくりまでのプログラムを提供する施設が出来ている。

指定管理者として、民間のフィットネス専門企業が運営している例や、PFI事業で行っている例もある。

検討課題

市民プール、四中プールを含めた無駄のない施設設定と事業手法